

イニシャル LiSi プレス インレーやアンレーに特化した 新しいインレー用インゴットの特徴

大阪府 T's Factory
歯科技工士
小出俊介



はじめに

今年2月に「イニシャル LiSi プレス」(以下、LiSi プレス)にインレー用シェード3色が追加発売された。これはLiSi プレスのなかでも特にインレーと

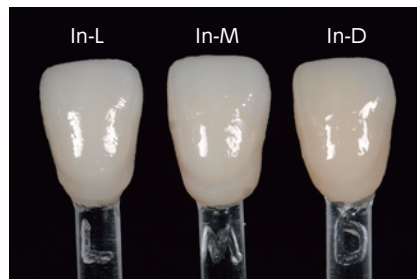
アンレーに特化した新しいコンセプトの製品である。

新しい色調は、明度の異なるIn-L (Light), In-M(Medium), In-D(Dark)

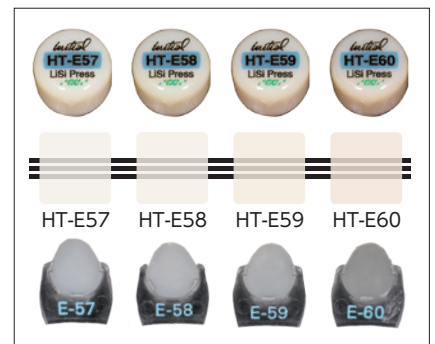
の3色で構成されている。蛍光性を抑え、適度なカメレオン効果を発揮するLiSi プレスのインレー用インゴットの特徴を症例を通じて紹介していきたい。



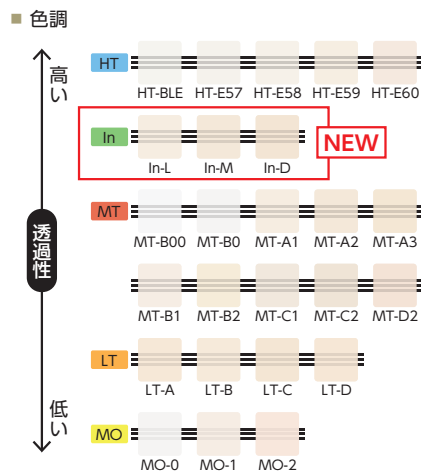
図A 明度の異なる3種類の構成。プレス前とプレス後では色調が変わるので注意が必要となる。



図B シェードガイド状にすることで、このままシェードテイキングに使用できる。



図C HTはラミネートベニアなどの薄い症例ではなく、厚みのあるインレーに使用すると白浮きすることが多かった。



	Bleach	A1	A2	A3	A3.5	A4	B1	B2	B3	B4	C1	C2	C3	C4	D2	D3	D4
HT (ラミネート用)	HT-BLE	HT-E58	HT-E59	HT-E60	HT-E57	HT-E59	HT-E60	HT-E59	HT-E60	HT-E59	HT-E60	HT-E59	HT-E60	HT-E59			
In (インレー用)	In-L	In-M	In-D	In-L	In-M	In-D	In-M	In-D	In-M	In-D	In-M	In-D	In-M	In-D			
MT	MT-B00 MT-B0	MT-A1	MT-A2	MT-A3			MT-B1	MT-B2			MT-C1	MT-C2			MT-D2		
LT		LT-A				LT-B				LT-C				LT-D			
MO	MO-0	MO-1	MO-2			MO-1	MO-2		MO-1		MO-1			MO-2			

新しいインレー用のインゴットの位置付けとしては、透過性がHTとMTの間となっているが、LiSiプレスのHTは透明度が低いのでこのインレー用のインゴットが一番透明感があるように感じられる。これまで透明度に悩ま

された方も多いと思うが、このLiSiプレス-Inを使用すれば、口腔内で簡単にシェードマッチングが行えるようになる。

LiSiプレスはプレス温度の幅が他社インゴットよりも狭くトラブルもあった

が、メーカーが推奨するプログラムを基準にプレスしていただきたい。低い温度でプレスしてしまうと色調が白く、不透明度が増してしまうので注意が必要である。

イニシャル LiSi プレス インレー用インゴットを用いた症例

患者さんは20代、女性。口腔内に1本だけメタルインレーが入っており、白い歯にしてほしいと来院。メタルインレーの下には少し二次カリエスが確認されたため、カリエス除去、再形成ののち本印象を行った。

Clinical Side



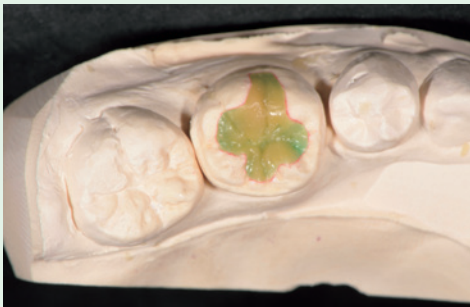
1-1 初診時は10代の頃に治療されたメタルインレーが入っており、ずっとその色が気になっていたようだ。患者さんは今までセラミックインレーの存在を知らず、他の歯と色調を合わせることが可能ならぜひとも合わせてほしいとの要望があった。



1-2 シェードテイキングを行うと通常のシェードガイドではA2くらいの色調をしていた。LiSiプレスのインレー用インゴットでもシェードテイキングを行うことで、この時点で色調の選択ができ、製作時に悩むことを減らせる。ここで色調を決定しておけば、彩度のコントロールのみに集中できる。



2-1 ラボにて模型を製作し、ワックスアップの前準備にかかる。シュアスペーサーにてしっかりとセメントスペースを確保する。セラミックインレーは接着が必須で、しっかりとセメントを介入させても浮き上がらないようにすることが必要なためである。シュアスペーサーはドライヤー等でしっかりと乾燥させてからワックスアップの作業に入るようにする。



2-2 従来通りワックスアップを行いLiSi プレスベストにて埋没し、プレス工程に進んでいく。LiSi プレスは反応層が少なく、サンドブラスターにて2気圧のガラスビーズにて簡単に埋没材からの割り出しができる（本ケースはIn-Mにてプレス）。



2-3 LiSi プレスの安定した適合性に加え、しっかりとスペースを確保しているため、埋没材を除去しスプルーカットのみを行った状態でもすっと入ることが多い。

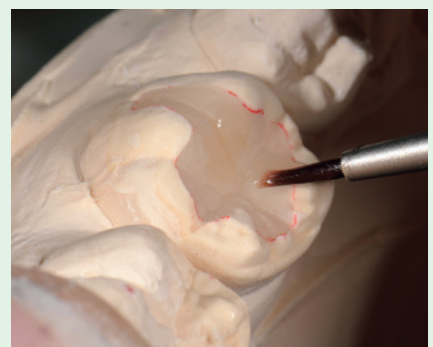
2-4 バイトや裂溝、マーゼンの研磨を行った状態。マーゼン付近の調整には円盤型のシリコーンポイントでなじませるように研磨すると、さらにチップを抑えられる。

STAINING

研磨を行ったのちにアルミナ処理を行いステイニング作業に移る。今回のInシェードは色相と明度の狙いがはっきりしているため、歯頸部とグラデーションをかけたいところにはイニシャルIQラスターペーストL-A,L-B,L-8にて補色し、白帯や白濁をL-2,L-V,L-Nに

て加色する。

基本的に全てのラスターペーストにL-Nを混ぜておくと、最後のグレースという処理を減らすことができる。裂溝部分にはイニシャル ステイン IN-situにて加色する。





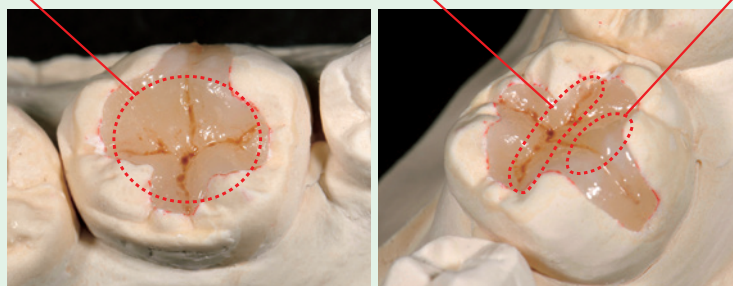
L-A : L-B : L-8 = 2 : 2 : 1の割合でベース色を作っている(イニシャルIQラスターペースト)。



艶のないステイン材を使用することで、よりリアルな裂溝の着色が可能になる(イニシャルステイン In-situ : IS-B、IS-R)。



L-2 : L-V = 1 : 1で混和し歯のホワイトの強さでL-Nの割合を変えて使用する(イニシャルIQラスターペースト)。



3-1 ステインで深みを与えることにより多少ではあるが立体感が生まれる。

Clinical Side

本症例は明度の比較を行うためIn-MとIn-Dを製作し、患者さんと担当医了承のもと色調確認を行った。

● In-Mを使用したケース



4-1 載せただけの状態。



4-2 トライインペーストを介入させた状態。

● In-Dを使用したケース



4-3 載せただけの状態。



4-4 トライインペーストを介入させた状態。

左の4つの写真を見ていただくとわかるのだが、載せただけのものでは色が少し浮いてるように見えるが、接着性レジンセメント「ジーセム リンクフォース」のトライインペーストを介入させるとマージン部分がカメレオン効果を発揮し、色が馴染んでいくことが確認できる。どちらも口腔内でのシェードマッチングはできていたが、実際の臨床ではIn-Mを使用した。In-Mではほとんどステインなしで口腔内にセットすることができると思われる。

SET



5-1 ラバーダムにて防湿し、「ジーセム リンクフォース」のトランスルーセントで歯とセラミックをしっかりと接着させるように慎重にセメンティングしていく。

インレーをセットし、咬合調整・研磨を行い施術は完了する。患者さんに鏡を見せると「どこを治療したのかわからない」との喜びの声をいただいた。この先もしっかりメンテナンスを行い、術後経過も追っていきたい。



症例提供: きたはなだますだ歯科 林 健太郎 先生

おわりに

今回、「イニシャル LiSi プレス」のInを症例の流れに沿って紹介させていただいた。このインゴットはエナメル色より赤黄色のアンバー色に近い色調をしているので、白く浮くことなく、歯の色調に馴染みやすい色調だと感じられる。インレーのシェードマッチングはイ

ンゴットの色調選択が重要なため、シェードタブを作成し、シェードテイキングを行う。

プレスセラミックスのインゴットを選択は難しく考えがちだが、このような明度の違いに焦点をあてたインゴットが発売され、インレーはこの3種類か

ら選択し、ステインにて補色する方法にシフトすれば悩むことなく製作できると筆者は感じている。

最後に、このような症例提供をいただいた、「きたはなだますだ歯科」院長の林 健太郎先生、ならびにスタッフ一同に深謝させていただきます。



小出俊介 (こいで しゅんすけ)

大阪府 T's Factory 歯科技工士

略歴◎2003年 滋賀県歯科技工士専門学校専攻科 卒業。2012年 大阪セラミックトレーニングセンター週末コース 28期終了。2013年 大阪SJCD テクニシャンコース 17期終了。2016年 GC LAB WORK AWARD 歯冠修復部門 優秀賞受賞。2018年 Clinical Enhancement Course 1期終了